

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名	横 溝 紳 一 郎	職名	教授	学位	博士(ハワイ大学大学院 1997 年)
----	-----------	----	----	----	---------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
小中連携の英語教育、学習意欲と教師の言動の関わり、教師教育者の役割、アクティブ・ラーニング	連携(アーティキュレーション)、学習意欲(モチベーション)、アクション・リサーチ

研 究 課 題
小学校と中学校の英語教育の連携の「あるべき姿」を、協働的アクション・リサーチを通じて調査・分析している。また、教師の言動が学習者の学習意欲にどのような影響を与えるのかについても、包括的な調査を行っている。加えて、「実習生や現職教師に対して、教師教育者がどのように働きかけるべきか」についての、理論的・実証的研究を進めている。また、アクティブ・ラーニングについて、理論・実践の両面で、研究を進めている。

担 当 授 業 科 目
日本語教育実習(通年) 卒業研究(通年) 事前及び事後の指導(通年:教職課程) 教育実習Ⅱ(通年:教職課程) 異文化間コミュニケーションⅠ(前期) Intensive ReadingⅠ(前期) 日本語教育方法論Ⅰ(前期) 日本語教育方法論演習Ⅰ(前期) 専門演習Ⅰ(前期) 英語教科教育法Ⅱ(前期:教職課程) 英語教科教育法Ⅴ(前期:教職課程) 異文化間コミュニケーションⅡ(後期) Intensive ReadingⅡ(後期) 日本語学概論(後期) 日本語教育方法論Ⅱ(後期) 日本語教育方法論演習Ⅱ(後期) 専門演習Ⅱ(後期) 英語教科教育法Ⅲ(後期:教職課程) 教育実践演習(後期:教職課程)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【日本語教育実習】 教育実習の教壇実習授業として、(1)ウィンチェスター大学からの留学生相手の授業、(2)北九州 YMCA での授業と、2 度実施した。昨年同様の実習授業時間を確保した。また、それに付随する形で、事前・事後指導だけでなく、実際の教壇実習指導の現場でも必ず実習生と行動を共にした。
授業科目名【卒業研究】 卒業論文の完成まで、授業時間だけでなく、授業外の時間やメールを活用して、個別対応の指導を課外授業の形で行った。各履修生が選んだテーマを最大限に尊重することで、卒業論文執筆への意欲を高めた。

授業科目名【事前及び事後の指導：教職課程：集中】 教育実習の前後に、英語の教え方に関する具体的なアドバイスを与えた。
授業科目名【教育実習Ⅱ：教職課程】 教育実習に行く前、学生の教案作成や教材準備等の面で、具体的な指導を行った。
授業科目名【異文化間コミュニケーションⅠ】 この分野についての専門的な知識をほとんど持っていない学生対象の授業であるため、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。また、集中力の維持をめざして、(1) 教科書の使い方の工夫、(2) 画像や映像教材の多用、(3) ふり返りの時間の確保、(4) わたしメッセージの発信、(5) 座席指定と数回の席替え等の対策を講じた。
授業科目名【Intensive ReadingⅠ】 少人数の授業であったので、よりきめ細やかな個別対応の指導を行った。
授業科目名【日本語教育方法論Ⅰ】 日本語教員養成課程の履修生が一番初めに受ける授業なので、開講時の学生の学習準備は、ほぼゼロである。それ故、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅することに努めた。また、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
授業科目名【日本語教育方法論演習Ⅰ】 1 年次に学んだ基礎的な知識を日本語授業に活かす方法を体得する演習授業なので、すでに得た知識内容をリサイクルしながら、それを実際に体験するような形で、授業をデザイン・運営した。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
授業科目名【専門演習Ⅰ】 『社会人基礎力』、すなわち「前に踏み出す力（一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力）」「考え抜く力（疑問を持ち、考え抜く力）」「チームで働く力（多様な人とともに、目標に向けて協力する力）」の3つの力を培うアクティビティを、継続して演習形式で行った。
授業科目名【英語教科教育法Ⅱ】 教師の役割、読む・聞く・話す・書くことの教え方、読む・聞く・話す・書くことを統合した教え方等、英語の教え方について、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。そのことにより、英語の学び方も学べる環境を整えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
授業科目名【英語教科教育法Ⅴ】 少人数の授業であったので、よりきめ細やかな個別対応の指導を行った。
授業科目名【異文化間コミュニケーションⅡ】 日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当て、授業を運営した。視聴覚教材等の使用により、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大し、社会的出来事を広く深く考える機会を履修生に与えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
授業科目名【Intensive ReadingⅡ】 少人数の授業であったので、よりきめ細やかな個別対応の指導を行った。
授業科目名【日本語学概論】 日本語学についての基礎知識に関する授業なので、日本語の音声から社会言語学までの広範囲にわたって、予習→授業での解説→日本語教育能力検定試験の問題回答、という流れで進めた。
授業科目名【日本語教育方法論Ⅱ】 日本語教育についての入門期の授業なので、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。テーマとして「教室運営」を選び、教師の言動の大切さを伝えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけ

けに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
授業科目名【日本語教育方法論演習Ⅱ】 次年度の日本語教育実習につなげるために、授業観察、教案作成、マイクロ・ティーチング、等を演習形式で行った。マイクロ・ティーチングの直後に、撮影した授業の DVD を作成し、各授業担当者にその日のうちに手渡し、映像による授業のふり返りの機会を与えた。
授業科目名【専門演習Ⅱ】 ロジカル・ライティングの能力向上をめざして、演習形式で授業を進めた。
授業科目名【英語教科教育法Ⅲ：教職課程】 発音の教え方、「教室運営」のし方、テストの作成方法、アーティキュレーション（連携）の作り方など、英語科教育法Ⅱでカバーしなかった内容に焦点を当て解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。その結果、英語科教育法Ⅱと英語科教育法Ⅲを受講することにより、英語教育に関する基本的な知識を得ることを可能にした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本語教育学会	評議員（2001年7月～2007年6月） 研究集会委員（2006年7月～2011年6月） 理事（2007年7月～2013年6月） 言語系学会連合運営委員会委員（2013年7月～現在に至る） 授賞候補選考委員会（2016年7月～現在に至る） 地域ブロック運営委員会委員（2016年7月～現在に至る） 代議員選挙管理委員会委員（2016年7月～現在に至る）	1988年8月～現在に至る
九州日本語連絡協議会	事務局長（2007年4月～2011年3月）	2005年10月～現在に至る
日本教師教育学会		2004年4月～現在に至る
日本教育アクション・リサーチ・ネットワーク	副代表（2010年10月～現在に至る）	2010年10月～現在に至る

2 0 1 8 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書） 特になし				
（学術論文） 特になし				
（翻訳） 特になし				

2 0 1 8 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の 名称	単著・ 共著の 別	発行又は 発表の年 月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会 等の名称	概 要
(学会発表) 1. 日本語教育実 習は、何を「実 習」させ、どの ような能力を 伸ばすのかー 大学の現場の 視点からー 2. 中学校スロー ラーナー用の リメディアル 教材の開発ー 文字と音の結 びつきに焦点 を当ててー	単独 共同	2018.9. 2018.9	平成 30 年度 文化庁日本語 教育大会 2018 年度日 本教育アクシ ョン・リサー チ・ネットワ ーク大会（横 浜）	① 西南女学院大学日本語教員養成課程を例とし て、日本語教育実習をどのようにデザイン・ 運営すべきかについて、総合的分析を行った。 ① 中学生のスローラーナー向けに開発された『S ounds and Letters』を使用し、その成果に 関する総合的分析を行った。 ② 共同発表者 河村扶美・松田由起子・高橋 志成・竹下幸代・原堅吾
				教育研究業績 総数 (2019.3.31 現在) <

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
ICT活用による授業の質向上および業務の効率化を目指した教員研修プログラムの開発	日本学術振興会	○（山田智久） 横溝紳一郎	1,000,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
小学校高学年における英語の読み書き指導に関する衝動的アクション・リサーチ	日本学術振興会	1,100,000	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
福岡市立博多小学校外部評価委員	委員長	2007年4月～2018年3月
福岡市立博多中学校サポーター会議	委員	2007年4月～2018年3月
福岡市国際教育礎プラン運営指導委員会	委員	2015年4月～2018年3月
福岡市国際教育懇話会	座長	2015年4月～2018年3月
福岡県立香住丘高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール事業運営指導委員会	委員	2011年4月～現在に至る
福岡市中学英語教育研究会主催 Yoko-Yoko Network	コーディネーター	2012年4月～現在に至る
公益財団法人日本英語検定協会講師派遣	講師	2012年4月～現在に至る
福岡県立香椎高等学校スーパープロフェッショナル・ハイスクール事業運営指導委員会	委員	2015年4月～現在に至る
福岡県立香椎高等学校評価委員会	委員	2015年4月～現在に至る
福岡県教育委員会主催英語教員指導力向上研修	指導助言者	2017年4月～現在に至る
福岡市次期教育振興基本計画策定検討委員会	委員	2018年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生部長 2018年4月1日～2019年3月31日 国際交流委員会 委員長 2016年4月1日～2019年3月31日 就職委員会 委員長 2018年4月1日～2019年3月31日 ハラスメント防止委員会 委員 2018年4月1日～2019年3月31日 学生個人情報保護委員会 委員 2018年4月1日～2019年3月31日 大学祭実行委員会 委員 2018年4月1日～2019年3月31日

学生募集委員会	委員	2013年4月1日～2018年3月31日
教職委員会	副委員長	2015年4月1日～2018年3月31日
外部資金導入プロジェクト	委員	2015年4月1日～2019年3月31日
就職委員会	委員（代理）	2017年8月1日～2018年3月31日
ハラスメント相談員		2017年4月1日～2018年3月31日